



草刈り前の草藪



草刈り作業



草刈り作業

## 十八坂九十九折の発掘調査

今年度は、令和元年10月7日～10月24日の10日間「十八坂九十九折」を調査しました。「九十九折」とは、幾度も折れ曲がって登る坂道のこと、歴史の道八十里越の特徴的な遺構です。その中でも「十八坂九十九折」は段数において八十里越最大の九十九折です。

九十九折は、傾斜が緩やかである一方、歩く距離が長くなるため、現在は使われていません。そのため調査前はうっそうとした草藪で全く見通しが利きませんでした。

まず調査の初めに、草刈機と人力による草刈り

を7日間行いやっと九十九折の全貌が明らかになり、草藪に隠れて今までの現地踏査ではわからなかった重要なことがわかりました。

これまで「十八坂九十九折」は明治新道のものと考えられていましたが、実はこの九十九折は、天保14(1843)年の大改修によって作られた「天保古道」の九十九折の上に、明治23(1890)年の大改修によって作られた「明治新道」の九十九折が作られていることが考古学的見地から明らかになったのです。

## 明治新道と天保古道の九十九折

明治新道の九十九折は9段あり、その2、3段目の間と4段目から7段目の間に天保古道の九十九折が重なっていて、明治新道は天保古道を壊して開削されている様子が観察できました。

また、天保古道の九十九折は5段あり、明治新道の九十九折よりも折り返す距離が半分以下の短い距離になっています。これは2つの道の用途に関わる違いと考えられます。天保古道が牛馬を通

す道であるのに対し、明治新道が荷車を通す道であるため緩やかな角度である必要がありますその分距離が長くなっているのです。天保古道の傾斜角度は8度前後で、明治新道は3度前後と格段に緩やかです。荷車で登ることができる明治新道の開削にあたっては、相当に緩い勾配で設計されたことがわかりました。

### V 歴史の道 八十里越



十八坂九十九折の各段



明治新道2段目と3段目の折り返し



天保古道の上に作られた明治新道(6段目)



明治新道4段目と5段目の折り返し



明治新道6段目と7段目の折り返し



天保古道の上に作られた明治新道(4段目)



十八坂から見た弥彦山  
その背後に佐渡



十八坂から見た吉ヶ平山荘



天保古道の草刈り作業



天保古道の折り返しと  
明治新道(5段目)